

(株)芦ノ牧ホテルを拠点とする被災者支援に関わる報告(2)

平成 23 (2011) 年 10 月 1 日

(株)芦ノ牧ホテル 震災被害者支援チーム

概要

本中間報告(2)は、(株)芦ノ牧ホテルが展開している東日本大震災の被災者支援に関わる活動内容をまとめたものである。

未曾有の大災害が発生してから、半年が経過した。被災者と国民の多くはショック状態から立ち直り、復興に向けて一歩ずつ前進をはじめている。その一方で、しかし、少なからぬ被災者が未だに避難生活を送っている。政府の東日本大震災復興対策本部は、2011年8月11日現在、避難者数が8万2643人に上ることを公表した。このうち避難所への避難者は8646人、避難所以外の避難先として、この時点では旅館・ホテルに1万3584人もの人々が身を寄せていた(図1参照)。

時間の経過とともに避難者数は徐々に減少する傾向にある。しかし、原発周辺地域の放射能汚染問題が長期化する旨の報道があるなど、被災者が住まいを確保し、通常の生活に戻るまでにはいまだ時間を要すると見込まれている。

被災者への支援を続ける(株)芦ノ牧ホテル(以下、当ホテルと記す)には、各方面から手厚いご支援の手を差し伸べていただいている。前回の中間報告(2011年4月25日付)で記載させていただいた企業・団体・個人の方々に続いて、復興支援の輪はさらに広がり、これまでに様々な物資をお届けいただいた。会長小野剛の郷里である大分県からは食品・生活必需品の支援を引き続き行っていただいている。これに対して小野会長は、大分県を訪れ、これまでにいただいたご支援に対して各方面にお礼を申し上げた(図2はこのときの様子。左から、是永宇佐市長とご支援者の方)。また、当ホテルは周辺ホテルに避難されている方にも支援物資の中から食料や衣類などを分配し、被災者に対する提供を行っている。

1. 復興への躍進『^{かつ}勝プロ』

当ホテルでは、3月14日の被災者受け入れ開始以後、様々な活動を展開してきた。それは、単に滞在・避難場所を提供するというだけでなく、被災者の精神的ケアも重要であるという考え方に基づいた活動である。実施した行事(イベント)を列記すれば、花見、慰労会、交流会、野球チー

図1
避難者数と避難場所(8月11日集計)



図2



左から宇佐市長是永修治・(株)芦ノ牧ホテル会長小野剛
宇佐市HPより

表1

日時	活動内容
2011年3月11日	東日本大震災発生
14日	(株)芦ノ牧ホテル 被災者受け入れ開始
20日~4月26日	171名の被災者受け入れ (4月26日時点、観光庁による補助金決定後の受け入れ、及び途中ご帰宅された方々を含む)
27・30日	被災者「花見ツアー」
5月8日	慰労会として「遊湯友の会」を開催
19日	被災者交流会「塔のへつり昼食会」の開催
31日	檜葉町より被災者130名を受け入れ(5月31日時点)
7月11日	檜葉町の少年野球チームを再結成
"	「福島県の子どもを守る会」と協力した避難者の受け入れを決定
20日	檜葉少年野球チーム「オール東山野球交流大会」へ参加
8月27・28日	被災地区の中学生野球大会 『がんばろう福島復興支援野球交流会』の開催

芦ノ牧ホテルの活動報告<http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/news/>より作成

写真は図3に掲載

ムの再結成と野球大会出場、少年野球教室開催などであり、これらは「人と人のコミュニケーションを促進する場としての温泉ホテル」という当芦ノ牧ホテルの経営理念にのっとった活動である。表 1 にその活動内容を示した。また、図 3 として各イベントにおいて撮影した写真を掲載した。



元プロ野球選手が経営をする当ホテルでは、特に、被災した子供たちとその御家族の心のケアとして、野球にこだわっている。福島第 1 原発の 20 キロ圏内である楢葉町から避難して来られた方々が、当ホテルには、最大時 150 人以上おられた。その中に少年野球チーム「楢葉イーグルファイターズ」のメンバーが数名含まれていた。震災後、複数の県に離れ離れになってチーム練習もままならない状態の子供たちを見て、読売ジャイアンツ、西武ライオンズでの投手生活を体験してきた小野会長の闘志に火がついた。こうして、この小学生チームのメンバーを集め、もう一度試合に出場する機会を設けて、少しでも普段の精神状態に導くことを目的とした計画が始まった。全国の NPO 法人や現役プロ野球選手の西武ライオンズ涌井秀章氏の協力を得て、チーム全員のユニフォームを新たに揃え、各方面に働きかけて、7 月 17 日に会津で開催された「東山野球大会」に参加することができた。津波で流されて、袖を通すことを諦めていたチームのユニフォーム姿でグラウンドに立った『楢葉イーグルファイターズ』の頑張り、メンバーの少年たちだけではなく、彼らの家族や友人、プレーぶりを見守る人々全員に感動を与えた。この試合の様子を報じた 7 月 18 日付の日刊スポーツ紙には「今はバラバラになった子どもたちが再会して、また一緒に野球ができて、みんな感動して泣いていました。新潟から来た子もいます。集まるのはこれが最初で最後かもしれない。よく頑張ってくれた」という小野会長もコメントが掲載された。

なお、このときの映像は、デジタルサイネージの第一人者である米国のニール・ヴァンワウ氏の協力によって、8 月初旬以降、大阪市梅田やニューヨーク市の街角に流されている。

さらに、8 月 27・28 日には中学生のための野球大会『がんばろう福島・復興支援野球交流会』が開催された。当芦ノ牧ホテルが呼び掛け人となり、福島県、宮城県、神奈川県野球団体を巻き込んでの大規模な大会になった。この中学生野球大会には、震災を蒙った県である宮城県から仙台育英学園が、また福島県からは相双連合（相馬市、双葉町）とチーム松風（いわき市）、および、地元会津若松市の 2 つの中学校チームが参加した。これらに加えて、同じ野球を志す中学生同士として震災地の仲間を心配する桐蔭学園中学のチームが神奈川県から奥会津に遠征して、計 6 つのチームでトーナメント戦を行った。試合後、代表挨拶に立った相双連合の岡田悠人君が「離れ離れになっていた大好きな仲間と共に、もう一度思いっきりプレーできる喜びを感じています。」との言葉を聞くことができた。その場に居合わせた者は皆、感動のあまり、しばらく顔を上げることができなかった。

また、この機会をとらえてプロ野球選手の工藤公康氏に来賓としてお越しいただき、これらの中学生諸君に対して野球教室のボランティアを行っていただいた。昼間の試合で工藤氏は、周囲の求めに応じて相双連合チームの指揮をとり、熱烈な監督ぶりを披露した。

以上の支援活動を、当ホテルでは、東日本大震災後の困難に打ち勝つという意味で『復勝プロジェクト』、略して「勝プロ」と名付けた。「勝プロ」は福島県の人々をはじめとする震災被害者が普段の生活を取り戻すまで実施していく。なお、活動内容の一部は動画投稿サイトYouTubeにアップロードしている。「勝プロ」<http://www.youtube.com/watch?v=8FfQEm4hV20>

1. 福島県の子どもを守る会

放射能汚染が心配されている福島県は7月8日に「ふくしまの子どもを守る緊急宣言」を発表した。これは、未来を担う子どもたちが健やかに育つことのできる環境を再生させると共に、「ふくしま」の子どもを守り抜くことを目標に掲げたものである。宣言の発表後、これまでに2回の緊急プロジェクト推進会議が開催され、策定された各事業の進捗状況が説明された。プロジェクトに拠出された予算総額は358億円。4つの分野、10の事業項目に予算が割かれている。しかし残念ながら、どの項目にも、一定期間子供たちを放射線量の高い地域から遠ざけるという案は盛り込まれていない。各事業の主眼は、放射線量を計測すること、および、その地の線量を低減させることに目標が定められているにすぎない。このままでは、健康被害を防ぐ環境が整うまで、子供たちの被曝が進行してしまう危険性がある。

図4



子供たちを放射能から守るネットワークHPより

仮に福島県に住む家族が、被曝を避けようとして一家での避難を考えても費用の問題があり、これに対しては義援金の配分も補償もない。この状況を見兼ねた県外に住む一人の主婦がNPO組織を立ち上げた。それが『福島県の子どもを放射能から守る会』である(図4を参照)。当ホテルは、この会と提携し、一人一泊4500円で支援する体制を整えた。仮に、この会から当ホテルに対する支払いが滞ることがあったとしても、受け入れを継続していく予定である。放射線量の低い会津若松市南部に位置している当ホテルに避難してもらうことで、子供達と保護者とがたとえ一時期であれ、安心して安全な生活を送ることができると考えている。このプランに基づいて、8月初までの間に述べ2000泊分の申し込みがあり、現在対応を行っている。多くの方々に滞在していただき、少しでも不安を解消して安らぎを取り戻していただきたいというのが私どもの願いである。

「福島の子どもを守る！避難サポートプロジェクト」ホームページ
<http://ameblo.jp/fukushima-support/>

2. ボランティア活動の場として絆プロジェクトの託児所運営など

当ホテル内には、臨時的に託児所が設けられていた。これは『「絆」プロジェクト2030』の活動の一環として、ボランティア・ベースで幼児らを一時的にお預かりするというプロジェクトである。現在は当ホテル内の一室を解放し、絆プロジェクトの託児チームによって、

図5

Kizuna託児ルーム すぎのこ

会津若松市「声ノ牧ホテル」の中に、ボランティア保育者による託児ルームがオープンしました！どうぞお気軽にご利用下さい♪

＜kizuna託児ルーム すぎのこ＞

開館日時◎毎週 火・水曜日 10:00～15:00
 ◎土日オープン準備中

場所◎会津若松市大戸町声ノ牧194
 「声ノ牧ホテル」2階 大戸の館
 TEL.0242-92-2208

定員◎4名(出席から対応)
 お預かりの日時や年齢月齢は、ご相談に応じます。

ご利用料金◎お子様1名につき100円(保護料)

ご予約方法は◎直接お電話にてお申込み下さい。
 空きがあれば、当日受付も致します。
 ◎会津若松市へのメールお問い合わせも可。

※お子様のオムツと飲み物をご持参下さい。
 ※清潔なお着替えやお肌着は、お預り時と引き取り時にお預りください。
 ※お子様のお名前をご用紙にて下さい。

お部屋の見学もご自由になれます。
 是非お子様と一緒に遊びたいですね！

◎詳細は、下記サイトでもご確認ください◎
 『絆』プロジェクト託児チーム <http://kizuna.fine-smile.jp>

◎お問い合わせ先◎
 kizuna@fine-smile.jp
 朝日・美奈(おさだ)
 (担当者の状態をお調べします。)
 お返事まで1週間ほど
 お時間をいただく場合がございます。

『kizuna 託児ルームすぎのこ』を9月末日まで運営した(図5参照)。ここでは、派遣していただいた1~2名の担当者が子供たちと折り紙や遊具などで遊ぶといった活動を行った。基本的には当ホテルに滞在されているお子様がお預かりの対象だったが、近隣のホテルや近くに住まわれている方々にもご利用いただいた。

また、会津大学、会津短大、NPO 団体「寺子屋方丈舎」の方々からも協力を得ている。故郷から離れて生活する子供たちのために、当ホテル内にて、学習塾やレクリエーションなど催していただいた。学習面だけでなく、生活の面においても子供たちと親しく接していただき、長期間の避難生活で蓄積されたストレスの解消に大変に役立ちましたとお言葉をいただいた。

託児所の運営実施に当たっていただいた絆プロジェクトのメンバーの方々、また、ボランティアに携わっていただいた方々には、この場を借りて深い謝意を述べさせていただきたい。

3. 今後の被災者支援活動について

東京電力福島第一原子力発電所の事故によって生じた混乱は、その収束までに長い時間を要すると見込まれる。当ホテルが受け入れを行ってきた被災者のうち、楢葉町の方々のほとんどは、幸運にして仮設住宅等に移ることができた。しかし、被災者全員が心底安心できるお住まいに移動し、元通りの生活を取り戻されたわけではない。芦ノ牧温泉街のホテルだけでも、なお、100名以上の被災者が滞在中である。私共は、今後もこれまで通りの対応を行っていくと同時に、提携している『福島県の子どもを放射能から守る会』を通じた避難者の受け入れを継続していく。

野球大会や野球教室をはじめとするスポーツ・イベントは今後も、震災後の子供たちの心のリハビリとして継続実施していく。子供たちばかりでなく、ご家族の方々にも数多く参加していただき、心のケアとなれば幸いである。

出典/閲覧 Web サイト

福島県 HP <http://www.cms.pref.fukushima.jp/>、宇佐市 HP <http://www.city.usa.oita.jp/>

(株)芦ノ牧ホテル HP <http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/index.html>、YouTube <http://www.youtube.com/>

朝日ドットコム <http://www.asahi.com/>、毎日 jp <http://mainichi.jp/>

YOMIURIONLINE <http://www.yomiuri.co.jp/index.htm>

日刊ドットコム <http://www.nikkansports.com/>、大分合同新聞など

社名：株式会社芦ノ牧ホテル

代表：代表取締役会長小野 剛

所在地：福島県会津若松市大戸町大字芦ノ牧 796

問い合わせ先：0242-92-2206 AM9:00 ~ PM9:00

： info@gsl-ashinomakihotel.jp

URL： <http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/index.html>